



2009年12月入職
ありたくみこ
有田久美子

即興でつくった節で、気分を盛り立てる

エキスパート CW の間口を広げたい

お風呂に入ってもらおうとき、「入ってください」と単にお願いするだけでは、「家で入るからいいよ」というように断られやすくなります。でも、施設のお風呂には栓が使われていて温泉のよう、それを味わってほしい。そこで私がはじめたのが、節をつけてお願いすることです。言葉に抑揚をつけることで、気分を盛り立てていくというか。平たく言うと、歌をつくるようなものですね。詩もメロディも完全に即興なので、「もう一度やって」と言われても、絶対に出来ません。節に合わせてふざけたポーズを取ることもあります。そうすると入居者さまの表情がほぐれていって、「仕方ないなあ、根負けしたよ」なんて言いながらお風呂に入ってもらえるんですよ。

皆が理想としているであろうケアワーカー像とは対極にあるので、エキスパート CW に選ばれるなんて到底あり得ない話だと考えていました。私よりも相応しいスタッフがいると思っていましたから。だから選ばれたときは信じられなかったのですが、次第に「他のスタッフにも目指してもらえるかも」と捉えるようになりました。これまでは「自分には無理だ」と感じていた方が、「こういった個性がある人でもなれるんだ」と感じてもらえるのであれば、私が選ばれたことの意義はあると思っています。

看取ることは、後ろ向きなことじゃない



以前、あるご利用者さまが、私が夜勤を担当しているときに亡くなられたことがありました。直後は「もっと対応出来ることがあったのでは」と自分を責め、かなり落ち込んでしまいました。その方はほとんど食事を採ることが出来ず、関わりを持つ時間は多かったのです。長い時間をかけて1杯のジュースを飲んでもらったこともありました。でも落ち込んでいるときに同僚の看護師さんに言われたのが、「亡くなるご利用者さまはスタッフを選ぶ」ということで

す。当時はそこまで理解出来ていなかったのですが、言葉の意味合いが少しずつ分かるようになってきました。プラスに捉えるならば、そのご利用者さまは私に看取ってもらいたかったということ。そう考えるようになってからは自分を責めることはなくなり、むしろ前向きな出来事として自分の中にあり続けています。



笑顔を大切に
皆で楽しく!!
有田久美子